つながる・役割・はたらく

～介護事業所から広がる「社会参加活動」の始め方～











一般社団法人 人とまちづくり研究所

平成30年度　厚生労働省　老人保健健康増進等事業
介護サービス事業における社会参加活動の適切な実施と効果の検証に関する調査研究事業



「社会参加」と聞くと、多くの介護保険サービス事業所（以下、介護事業所）が「私たちの事業所も、夏祭りなどを通じて、利用者と地域の交流をしています」と説明されると思います。たしかに、夏祭りも社会参加のひとつです。しかし一方で、デイサービスなどの日常を見ていくと、利用者は、施設内でずっと時間を過ごし、あまり外とのかかわりもないまま1日が終わるという風景もそう珍しくありません。介護保険サービスを利用し始めることで、その人がもともと持っていた地域のつながりや友人知人のつながりから切り離されてしまうケースが少なくないのも事実です。年に数回のイベントで地域と交流していても、日常がもし地域や社会と隔絶しているのであれば、社会の一員としての利用者の思いをつぶしてしまっているかもしれません。

この冊子は、厚生労働省老人保健健康増進等事業「介護サービス

目次 Contents

p.01-02　はじめに、目次

p.03-04　なぜ社会参加なのか？

p.05-06　社会参加までの道のり
必要な7つの力

p.07-08　事例（1）株式会社 ユニティ（霧島市）

p.09-10　事例（2）株式会社 創心會
（倉敷市・岡山市ほか）

p.11-12　事例（3）NPO法人 シニアライフ
セラピー研究所（藤沢市）

p.13-14　事例（4）認定NPO法人 つどい
（長浜市）

p.15-16　事例（5）株式会社 浪漫（姶良市）
事例（6）品川区立東五反田
地域密着型多機能ホーム

p.17-18　事例（7）医療法人社団
東北福祉会（仙台市）
事例（8）株式会社 アール・ケア
（玉野市・岡山市ほか）

p.19-20　計画書への記載例

p.21-22　自治体の声（岡山市）
まとめ

霧島市の通所介護事業所「リハケアガーデンネクスト」では、利用者が、地域の小学校を訪問し、清掃や登下校時のあいさつ活動などを担っています。



事業における社会参加活動の適切な実施と効果測定に関する調査研究事業」の調査研究の内容をもとに、利用者が、家庭や事業所、そして地域で役割を持って参加、はたらくことをどのように始めたらよいのか、どのような準備が必要なのかをまとめたものです。まだ数としては、そう多くはありませんが、全国の介護事業所では、業種や規模を超えて、チャンレジが始まっています。こうしたケースも参考に、皆さんの事業所でも、新たな活動がスタートするきっかけとなれば幸いです。

なぜ社会参加なのか？

社会参加活動・はたらくには、一体どのような効果があるのでしょうか。

活動をはじめた本人が、以前よりずっと元気になったということがよく聞かれます。活動が意欲や心身機能の維持・向上につながっていると考えられます。また、本人の変化を通じて、家族の喜びや介護負担感の軽減、地域住民にとっての希望、事業所スタッフのやりがいがもたらされることもあります。

賃金労働や有償ボランティアに限らず、誰かのために、何かのために日々することを「はたらく」ととらえると、地域の中には多くの仕事があり、できることが潜在しています。

こうした活動は、介護事業所内のアクティビティの1コマという意味合いを超え、地域社会全体に様々な波及効果があります。利用者が、その思いを活かして社会参加活動に取り組むことで、地域における人と人のつながり、生態系に変化がもたらされます。

本人（利用者）の声

小学校ボランティアなどの社会参加活動を通して、今は体がいうことを聞かないことも多いが、参加したいという気持ちを持つことが増えた。今後も体が動くなら色々なことに参加したい。
（80代男性・通所介護事業所）

弁当の作業（弁当箱にスタンプを押す作業）を行う事で愛着が出て、お店までお弁当を購入するために行った。
（70代女性・通所介護事業所）

家族の声

「折り紙や塗り絵などしたくない、自分はまだまだいろんなことができる」という父の言葉を頼りにデイサービスなどを探してきました。（他のメンバーと一緒にはたらく姿をみて）あんな様子の父を久しぶりに見ました。本当に嬉しかったです。

（デイサービスに通う）以前は、家で暗く塞ぎ込んでいましたが、そこにいた人たちの明るさが伝染したのか、洗車という社会的なつながりが良かったのか、以前の父の明るさを取り戻していったようです。今も道に迷うことや、鬼の形相で怒ることもありますが、そんなことより友人ができたことが嬉しく思います。

事業所スタッフの声



ご利用者と一緒に歩くことで、歩行状態、身体機能を評価する機会になった。「お金をもらったら、○○を買いたい」と笑顔で答えられるご利用者と一緒に楽しみながら取り組めています。



ご利用者にとって社会参加がどの様な意味があり、どう展開していけばいいのか考える様になりました。また、ご利用者の可能性を考える良い機会となっています。家族の方へ報告することで、その人の暮らしを知ることができたり、また家族にとっても新たな発見がある様で、日常の活動につながることもある様です。



ご利用者様の目標や希望を聞き取るスキルが以前に比べ向上した。ご利用者様の将来の目標の先に目を向けられるようになった。ご利用者様と話したい、話すことが楽しいと思えるようになった。



通所介護のイメージが高齢者の預かりの場といったものではなく、利用される方々が再度もしくは新たな生きがいや役割を見つけていく場所だという認識に変化しました。



社会参加で子供達と嬉しそうに触れ合う姿を見るとお誘いして良かったと思います。これからも他の方々と一緒に参加できるようにしていきたいと思います。

地域の声



地域活動に参加してみて、初めて高齢者、地域について知らないこと、また理解していないことが多いと思いました。



両親を亡くして利用者様が自分の親の様に感じ、楽しく会話などができてよかった思います。

「やりたい」を実現するまでの道のり

介護事業所の中には、「社会参加活動」と言われても、何をすればよいのか イメージできないところも少なくないと思います。全国の事例を通じて、利用者の参加・はたらくの実現・継続には、どのような道のりがあるのかをまとめました。

1 そもそも、何をすればいいのか？

ひと口に社会参加といっても、本人の想いや希望、要介護度も異なり、有償ボランティアから家庭内での役割や買い物等しごとのタイプも様々です。活動内容ありきではなく、本人との話の中から、想いと「やりたい」を実現するための活動を一緒に考えていきます。（P.09、P.16、P.17、P.18）

2 地域でしごとや役割を見つけるには？

利用者が得意なことやできることを起点に、地域の中でそれができる場所や仕事を発注してくれるところを探します。一般企業や商店、自治会などに尋ねてみることもできますし、関連法人などがあれば、そこで探すこともできます。最初は無償でスタートし、信頼関係を築く中で、謝礼を支払う有償ボランティアに移行するケースもあります。（P.07、P.13 参照）

3 外に出て、人員は大丈夫？

従来の運営方法のまま、それに加えて、外に出る活動をすると介護スタッフが足りなくなるという懸念もあります。しかし、実際に活動をしている事業所では、室内も外でも、利用者にできることを積極的にしてもらうことで、こうした問題は起こっていません。社会参加を進めていくには、「してあげる」型の運営体制から脱却する必要があります。（P.07、P.11 参照）

4 謝礼が発生しても大丈夫？

介護保険サービスの利用者が、社会参加活動を通じて、有償ボランティアとして謝礼をもらうことは認められています。ただ、現段階ではそれほど多く事例がある訳ではないので、地域によっては前例がなく、消極的な解釈がなされる場合もあります。金銭などを発生させず、地域通貨のようなポイント制にする方法をとっているところもあります。（P.11、P.13 参照）

5 家族・ケアマネ・保険者はどう思うだろうか？

社会参加活動は、自立支援という介護保険の本来の目的に沿ったもので、自治体の中には、積極的に推進しようというところもあります。ただ、活動内容によっては慎重な判断がなされる場合もあります。活動の目的や他の地域の事例なども伝え、丁寧にコミュニケーションをとることが大切になります。（P.19、P.21参照）

6 継続発展させていくには？

社会参加活動は、利用者の意欲や活動性が増すきっかけになります。介護サービスの利用時以外の、社会活動や就労などにつながるケースもあります。活動をより発展させていくために、就労継続支援との連携や、一般の企業活動の中に位置付ける動きもあります。（P.09、P.13、P.15 参照）

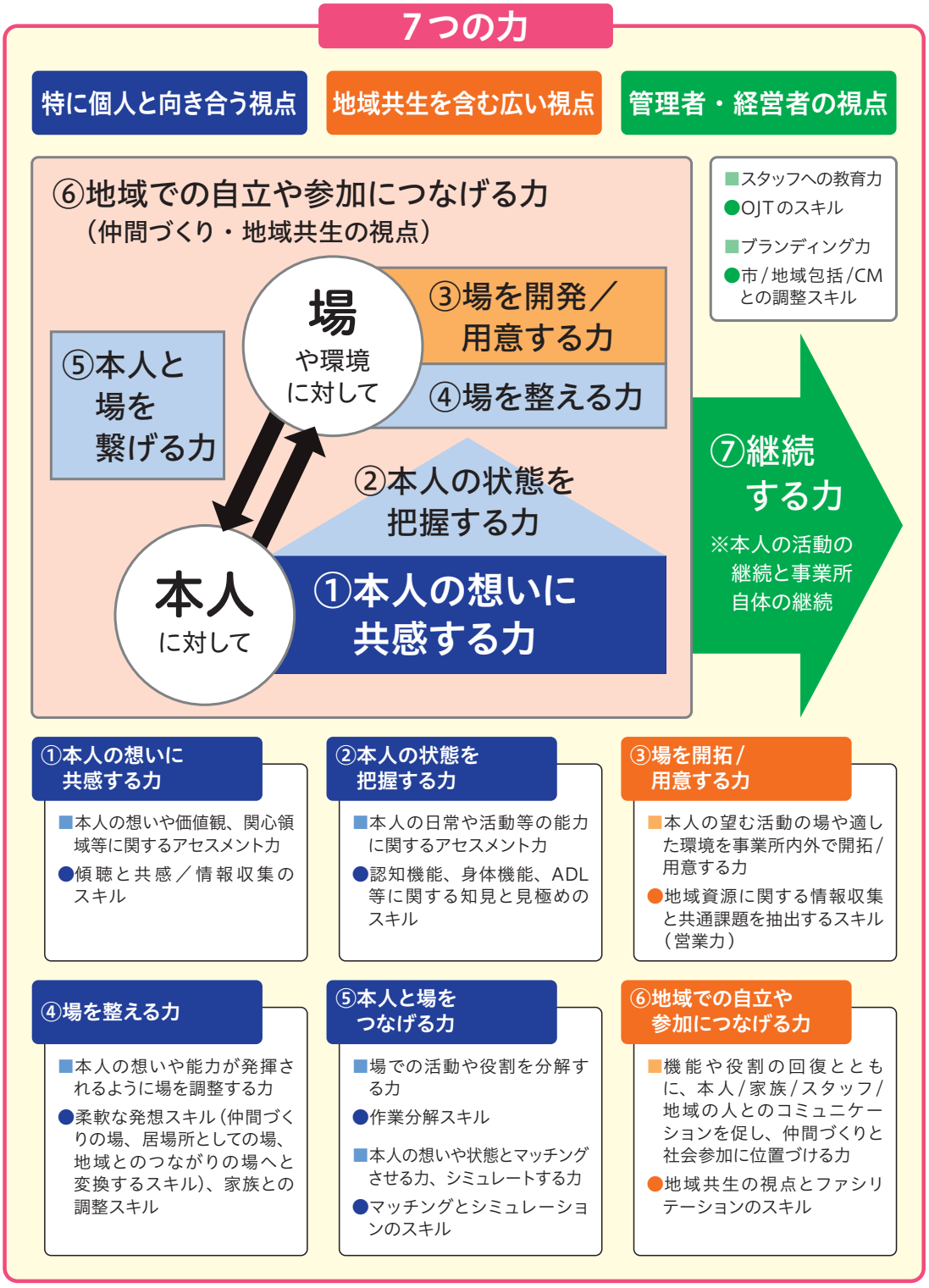


活動がうまくいくために、必要な7つの力

社会参加活動を成功させるためには、どのような力が必要になるのでしょうか。今回の調査では、こうした活動に取り組むキーパーソンの動きに注目し、共通の要素を整理しました。

図のような7つの力が必要となります。こうしたこと全てを一人で担うのが難しいケースも少なくいと思いますが、これらはチームで分担することもできます。

社会参加活動の事例を参考に、活動を始めても、どうもうまく行かないという場合には、前提となるこうした要素が不足している可能性があります。自分たちは、いま、どのようなことができていて、どのようなことが課題になっているのか、要素ごとに検討してみることで、解決の糸口が見つかるかもしれません。





鉄棒のペンキ塗り
教育委員会と話し合い、地元の小学校で、鉄棒のペンキ塗りのほか、窓拭き、あいさつ活動などを担っています

株式会社 ユニティ
（鹿児島県霧島市）通所介護

まずは、身近なところから仕事を見つけていく

鹿児島県霧島市にある通所介護事業所リハケアガーデンネクストでは、利用者の社会参加に力をいれてきました。代表の濵田桂太朗さんは、以前、自分の祖父が通っていたデイサービスで、夕方になると多くの利用者が突っ伏している姿を目の当たりにして、自身で事業を始めることにしました。

「その人が本来できることまでしてしまって、何かに挑戦しようという気持ちや身体機能も落ちてしまい、介護がより必要になってしまうという悪循環を断ちたいと思いました」と濵田さんは言います。

利用者が役割を持って、できることを見つけていきたいということで、濵田さんやスタッフの友人や同級生などのつながりで仕事をできる先を開拓してきました。現在、コンビニや自動車販売店での仕事や、弁当容器のスタンプ押し、小学校での清掃やあいさつ活動などをしています。こうした仕事を始めたことによる効果は大きく、要介護2だった人が、要介護状態から卒業した人もいます。当初、デイサービスの利用者だった人が卒業し、今度はデイサービスでボランティアとしてはたらくようになった人もいます。

「役割や仕事の先には、必ず地域や企業、子供たちなどの人がいるので、交流も生まれています。現在は無償ボランティアという形でやっています



コンビニの商品整理の作業

知り合いだったコンビニエンスストアの人に、何かできることはないか聞いてみたところ、商品整理の仕事を任されました。



弁当箱にスタンプを押す作業

事業所の中で空き時間を見つけてできる作業なので、多くの人が参加できます。
中には作業がきっかけでこの弁当を買いに行く人も。

基本データ

●リハケアガーデンネクスト
（通所介護）

●利用者数（1日平均）
3時間コース：18名
6時間コース：30名

●平均要介護度
3時間コース　支援2～介護1
6時間コース　介護1～介護2

「外にでて活動をすることに対して、当初、ケアマネさんから怪我をしたらどうするのかなど危惧する声もありました。活動の内容をニュースレターにして届けたり、周囲の方たちにも理解してもらうようにしています。事業所の外と内で別れると、スタッフが不足するのではないかという声もありましたが、事業所内に残る利用者さんにも、自分でできることは自分でやっていただいているので、人員不足を感じたことはありません。」



株式会社 ユニティ
代表取締役
濵田桂太朗さん

が、有償のものも開拓し、働いている方たちの張り合いにつなげていきたいと思っています。」



ビニール袋の結束作業
利用者の社会参加の入口として、利用者の目標に合わせた就労訓練として実践している。

株式会社 創心會（倉敷市・岡山市ほか）
通所介護

社会参加の“入口”を意識したデイサービス
障害者就労や一般就労につなげることも

岡山県各地でデイサービス事業などを運営する創心會では、２０１０年頃から、利用者の社会参加や就労に力を入れてきました。当時、リハビリを通じて、生活機能を回復しても、その先に行く場がなく、機能が再び低下してしまうことに危機感を持ち、経営層を中心に議論を重ねました。その結果、医療・介護保険制度の中だけで考えるのではなく、より広く、地域社会の中での居場所・出番・役割を創る仕組みを作らないといけないという結論に達しました。それ以来、強いリーダーシップの下、関連法人を立ち上げながら、農業や食に関係する事業を開発してきました。現在関連法人には、就労継続支援Ａ型、Ｂ型を運営する株式会社に加え、農地所有適格法人があります。

デイサービスでは、リハビリの一環として、箱の組み立て、パンづくり、事務系の作業など様々な作業を行っています。こうした作業を通じて、生活機能を回復した人の中に、福祉就労や一般就労につながっていくケースがあります。農地所有適格法人で生産している特産の青ネギは、農作業や加工、箱の組み立てなどを、高齢者や障害者などで分担しています。また、デイサービスの施設に併設されている地域交流スペースChaya cafeでは、地元のパン製造販売会社の協力の下、パンの製造販売をしており、高齢者や障害者が働く場となっています。社会参加や就労を通じて、関係

者の意識も変わってきました。「まず、利用者の自己肯定感につながっていると感じています。そして、こうした取り組みを続けてきた結果、利用者や家族、スタッフが、介護保険サービスの利用の先にある目標・次の入口を意識するようになったのではないかと思います。」（創心會執行役員・河﨑 崇史さん）

一方で課題もあります。生活機能を回復し、就労意欲の高い人が増えても、家族が「今更そこまでしなくても」と反対されることもあります。更に、障害者・高齢者が参加・就労する場所、受け皿を増やすなど、環境の整備も進めていかなくてはなりません。

創心會グループの代表で作業療法士の二神雅一さんは、「単に『仕事』に従事するということに意識を向けるのではなく、働くことで役に立てるという効力感や、社会の中に自身の居場所を確認することで、人としての生きる喜びが得られるという普遍的な価値観に基づく取り組みと、その啓発活動で地域を巻き込んでいくことがとても大切だと考えています。

また、当事者の自立が促進され、社会参加やQOLが向上すれば、家族にも同様の効果（参加促進・QOL向上）が期待できるのです。」と言います。



模擬就労スペース Chaya-cafe
創心會施設のカフェで就労体験している介護保険サービス利用者（写真中央）。



青ネギの加工・出荷作業
介護保険サービスを利用しながら関連法人が運営する就労継続支援事業所（A型）で、社会参加をする様子。

基本データ

- ●創心會デイサービス事業（通所介護）
- ●利用者数：2,105名
- ●平均介護度：2.10

（2019年2月末時）

※関連法人
農地所有適格法人
合同会社ど根性ファーム
株式会社リンクスライブ
（就労継続支援A型、B型）等

当社は訪問看護リハビリ事業やデイサービス事業を中心に、自立支援介護に力を入れ、活動・参加へのアプローチに積極的に取り組んできました。これらは地域社会から寸断された環境では成しえません。利用者が要介護状態になったことで地域社会から切り離されることを防ぐためには、利用者を通じて地域社会にも働きかけていくことが重要です。利用者と地域社会を結び、そこに居場所・出番・役割を創っていくことが、自立支援、活動・参加へのアプローチの在り方だと思います。



株式会社 創心會
代表取締役
二神雅一さん



親子連れでにぎわうレストラン
同じ建物内には、ヨガや子育て関係のイベントなども開催されています。高齢者から子どもまでがまざりあう拠点になっています。

NPO法人 シニアライフセラピー研究所
（神奈川県藤沢市）　通所介護

高齢者がはたらく地域レストラン「かめキッチン」

神奈川県藤沢市にある「かめキッチン」は、親子連れや地域の人でにぎわう地元でも人気のレストランです。様々な惣菜やごはん、汁物、無添加のパンなど、ビュッフェ形式でランチを食べることができます。ここで提供される惣菜づくりで活躍するのが、デイサービスに通う高齢者です。デイサービスの利用者は、機能訓練の中で、食材の下ごしらえや調理、味付けなどをしています。

このレストランがスタートしたのは、2018年6月。デイサービスが、機能回復の場としてだけでなく、社会と接点をもち、生きがいにつながる場になればとの想いがありました。この場を運営するNPO法人シニアライフセラピー研究所は、介護保険事業だけでなく、障害福祉事業、地域ボランティア事業など40を超える事業を幅広く運営しています。このレストランではたらくのは、デイサービスの利用者ですが、同じ厨房には地域のボランティアも混ざって調理をしています。お店にやってくるのは、福祉作業所でつくったパンを買いに来たお客さんもいれば、交流スペースでヨガをやっていた女性たち、小さい子どもと一緒のママさんたちなど幅広い地域の人たちです。

ここではたらくデイサービスの利用者は、有償ボランティアとして謝礼を受け取っています。2018年現在、時給に換算すると、200円から





調理するメンバー
地域のボランティアと介護サービスの利用者がまざり、分担しての調理。



ビュッフェ形式のランチメニューは、種類も豊富
会員制のボランティア団体（亀吉鵠楽舞）に入ると割引の特典もあります。

300円ほどが支払われています。レストランの開業以前から調理を通じた機能訓練などはしてきましたが、謝礼が支払われるようになってから、利用者の張り合いも増したと言います。デイサービスに通う中で、自分の役割を見出し、地域のボランティアの人たちと一緒に作業をし、地域の人たちが食事を食べにやってくる、こうした一連の風景が、利用者の喜びにつながっています。

理事長の鈴木しげさんは、「介護保険の利用者であってもなくても、障害があってもなくても、それぞれの人がやりたいことと思うことを実現するために、様々な事業をしてきました。法人としては、将来的には、介護保険事業からの〝卒業〟も視野に入れています。」

基本データ

- カルチャースクール亀吉
  （地域密着型通所介護）
- 利用者数：6.5名（1日平均）
- 平均介護度：1.5
- 主な社会参加の活動
  かめキッチンで提供する
  惣菜の調理

ここでの活動は、地元のボランティアの方と介護サービスの利用者の方たちが中心です。介護スタッフは、関わりを最小限にするよう努めています。介護スタッフが何でもやろうとすると、ボランティアさんが活躍する領域がなくなってしまい、楽しくボランティアができなくなってしまいます。



NPO法人
シニアライフセラピー研究所
理事長
鈴木しげさん



休耕田を利用したハスの栽培
長浜市は古くから観音信仰が盛んで、
ハスには縁が深い。

認定NPO法人 つどい（滋賀県長浜市）
通所介護

いろんな人がまざり、仕事ができる地域に産業を作っていきたい

滋賀県長浜市の西黒田地区は、人口2千人余り、高齢化率32％の地域です。この地区を拠点にするＮＰＯ法人つどいは、通所介護事業のほか、就労継続支援Ｂ型事業所、放課後児童クラブ、引きこもりなどの働きづらさを抱えた若者の支援などを幅広く活動しています。代表の川村美津子さんが事業を始めたのが２０１１年。はじめから、いろんなことをやろうと思っていた訳ではなく、デイサービスを始めたら、こういう人がいて困っている、こういう場がないかと、地域の人から困りごとが持ち込まれるようになり、どんどん事業が増えていきました。

「介護保険事業がしたいというよりも、この地区に産業を作りたいというのが根幹にある思いです。農業にしても担い手が高齢化して耕作放棄地が増えている。高齢者も障害者も含めて、いろんな人が働ける場を作ったり、仕事を作っていきたいんです。」

デイサービスでも、利用者は、できることは自分でするのが基本。食事の支度や清掃などの一部も利用者がやるほか、喫茶の給仕をしたり、耕作放棄地を利用した農作業などもしています。デイサービスでは、仕事をしてもらった利用者には、金太郎マネーという独自のポイントを発行し、事業所で買い物に行った際に物が貰える（事業所の負担）ようにしています。仕事を通じて、高齢者

と就労継続支援B型事業所ではたらく若者が交流をすることもあります。

2015年から特に力を入れているのは、休耕の棚田を利用したハスの栽培と加工品づくりです。長浜市は古くから観音信仰が盛んで、ハスは縁が深く、地元農家の協力も得ながら、地域振興の起爆剤にしたいと考えています。

さらに積極的な地域振興をしていくために、2018年には合同会社を設立。放棄される予定だったビニールハウスで、シイタケ栽培を始めました。介護保険事業とは関係なく、地域の高齢者がシイタケづくりをしています。

「こうした事業を通じて、いろんな人がごちゃまぜになって、役割やしごとがある地域を作っていきたいです」川村さんの夢の地域を形にする作業は続きます。


1


2


3


4

1 シイタケ栽培
地元で栽培をしていた農家が高齢となり、施設が利用されない状態でした。

2 収穫作業
地域に住む高齢者が栽培・収穫の作業をして、道の駅などで販売しています。

3 香水
香水を製造する会社の協力で作られたハスの花を使った香水。

4 染物
ハスを使って作られた染物。

基本データ

●デイサービスつどい
（通所介護）

●利用者数：22名（1日平均）

●平均介護度：要介護1～2

※同じ法人で、
就労継続支援B型事業所、
放課後児童クラブなども運営

高齢化が進むこの地域をなんとかしたいというのが、原点の想いです。そのためには、高齢者から子どもまで、障害があってもなくても、みんながごちゃまぜになって、地域にしごとを作るしかないという思いでやってきました。介護事業だからとか、NPOだからとかではなく、やりたいことを実現するためにどんな法人、どんな仲間でやるかという発想が必要ではないかと思います。



認定NPO法人つどい
理事長
川村美津子さん



謝礼の入った袋を見せる男性

はたらく利用者には、有償ボランティアとして謝礼が支払われます。謝礼を手にした男性は、自分で稼いだお金で理髪店に行きたいと話していました。

DM便の配達

周辺に配布するDM便が、事業所にまとめて届きます。そのDM便を、利用者と介護スタッフがペアになって、徒歩で配って歩きます。

株式会社 浪漫
（鹿児島県姶良市）
小規模多機能型居宅介護



宅配事業者と協働 地域との顔の見える関係づくりに

共生ホームよかあんべでは、他の介護事業所（同じ地域にあるユニティP07参照）と一緒に、2019年2月からヤマト運輸との協働を始めました。

週3日、ヤマト運輸がその地域に届けるDM便をまとめて事業所に届け、その後、介護スタッフと利用者がペアになって、事業所を中心に1キロ範囲の家に配っていきます。契約関係としては、介護事業所がヤマト運輸と業務委託の契約を結び、ヤマト運輸から委託費として事業所に支払われます。事業所は、利用者に対し、受け取った委託費の全額を謝礼（有償ボランティア）という形で支払います。

こうした活動を通じて、外へ出る機会を増やし、介護保険からの卒業を目指すという人もいます。株式会社浪漫の代表の黒岩尚文さんは、「これまでも、地域の清掃活動をしたり、自治会と一緒に夏祭りを準備したりする中で地元の人たちとの関係づくりをしてきました。これまでは、要介護度が重い方が中心でしたが、新しく利用される軽度の人たちの中には就労意欲が高い人もいます。こうした活動で、生活の張りになると同時に、顔の見える関係づくりのきっかけになれば」と言います。

基本データ

- 共生ホームよかあんべ（小規模多機能型居宅介護）
- 利用者数：28名
- 平均介護度：1.85



長野から届いた野菜を販売
接客をするのは、小規模多機能やグループホームの利用者。
同じ町内の人々が足を止めていきます。

品川区立東五反田地域密着型多機能ホーム
小規模多機能型居宅介護／認知症グループホーム

「働きたい」の声に応えて、子どもや地域の人が集まる場に

東五反田地域密着型多機能ホームでは、2017年に開設以来、認知症の人のできることや、働きたいという思いを実現することに力を入れてきました。ここを運営するのは、岡山県に拠点をおき、認知症ケアで全国的にも知られるきのこグループの社会福祉法人です。施設長の鈴木裕太さんは、16年前に、このグループに就職し、都内の施設で働いてきました。「重度の認知症の人やBPSD（認知症に伴う行動・心理症状）がある人へのケアには力を入れてきましたが、軽度の人を中心に、『まだできることがある』『働きたい』『自分で使えるお金を持ちたい』といった声には十分向き合ってこれなかったという思いがありました」と鈴木さんは言います。

連携している長野県の福祉作業所で作っている玉ねぎなどを仕入れ、施設内の屋外スペースで販売をしたり、施設1階のスペースを使って駄菓子屋をしたりしています。接客やお金の計算をするのは、グループホームの入居者や小規模多機能の利用者です。地域の人や子供たちが集まる場所になり、それまで寝ていることが多かった人が、そろばんを準備して待っている姿が見られるようになったと言います。



建物内にある駄菓子屋スペース
地元の子どもたちが立ち寄る人気スポット。
親の世代も、この場所に気軽に立ち寄ってくれるようになりました。

基本データ

●品川区立東五反田地域密着型多機能ホーム
（小規模多機能型居宅介護・認知症対応型共同生活介護）

【小規模多機能】（2018年2月現在）
●登録者：25名
通いの平均は10名程度
●平均介護度：2

【グループホーム】（2018年2月現在）
●登録者：18名
●平均介護度：2.4



地域交流祭で玉こんにゃくを調理
総合事業を利用する女性（右）の自宅での役割は、娘夫婦の分も含めて夕食を作ること。

通所リハを利用する方の調理の様子

医療法人社団 東北福祉会
（宮城県仙台市）介護老人保健施設
通所リハビリテーション
介護予防・日常生活支援総合事業

アセスメントから始まるそれぞれの目標や役割

仙台市にあるせんだんの丘は、在宅復帰率が8割（2019年2月現在）の超強化型の介護老人保健施設です。同法人では、通所リハビリテーション、介護予防・日常生活支援総合事業（以下、総合事業）をはじめとする居宅部門も備えており、連続したサービスにより、対象者が可能な限り在宅生活を継続できるよう支援をしています。

せんだんの丘の支援相談員の三浦晃さんは、「在宅生活の維持または再開にあたり、その方の社会参加を支援していくためには、最初の聴き取りが大事だと考えています。日常会話のような雰囲気に努めながら、その方固有の生活歴や価値観を把握するようにしています。そのうえで、やってみたいこと・大事にしたいことは何かをお聞きし、固有性のある計画を作ることを意識しています。」と言います。

入所者の場合は、要介護度が高い傾向にあり、施設外での積極的な活動が適わないことも多いですが、なるべくご自宅やご家族との接点を持つように支援しています。外出・外泊の際に、いつもの席でお茶を飲む、いつものお部屋で寝起きする、そんな日常的なことが、ご本人やご家族にとってかけがえのない場面だったりしますし、一つの社会参加の形と捉えています。

一方、通所リハビリテーションや総合事業では、「自分で食材を選んで自分で料理したい」「バスに乗ってデパートに行きたい」など、地域での活動を支援する例も多くなります。例えば「野球観戦」が目標である場合、交通手段やタイムスケジュール、水分補給などのリスク管理などを、まずはご本人に考えていただきます。そして、必要な助言を通して野球場までの移動方法を整理し、現地集合を設定することもあります。実施後の振り返りを通して、自分で考える力、行動する力が向上し、その後の行動範囲の拡大につながった例もあります。

基本データ

- 介護老人保健施設
  せんだんの丘
- 定員：100名
- 平均要介護度：3.24
- 平均稼働率：96.89%
- 在宅復帰率：80%

（2019年2月末現在）

※同法人で、通所リハビリテーション、介護予防・日常生活支援総合事業も運営



自宅での転倒が続いていたため、自宅や周辺の環境のチェックを経て機能訓練の計画が立てられました

お寺までの100段の階段
1周忌までに階段を自分の足で登るという目標は無事達成。

株式会社 アール・ケア
（玉野市・岡山市ほか）
通所介護事業

リハビリテーションを通じて、生活リズムや習慣を取り戻す

岡山県南部で10事業所を展開するアール・ケアは、機能訓練に特化した通所介護事業所です。介護保険事業の中では、社会参加やはたらくといった取り組みにつながるよう、筋力強化、歩行訓練やバランス訓練などを実施しています。プログラムを通じて、以前の生活のリズムや習慣を取り戻すことを目標にしています。デイサービスを利用する80代の女性は、夫が亡くなり、一人暮らしとなってから、自宅内での転倒が続いていました。デイサービスでは、本人の状況と自宅内の環境を評価した上で、機能訓練のプログラムを計画しました。ご本人と話の中で、夫の納骨の際には、100段ある階段が登れず、お寺に自分の足で行くことができなかったので、一周忌までには自分の足で上がれるようにしたいという生活目標が設定されました。5ヶ月のプログラムの結果、階段も無事登ることができ、自宅内での転倒も防ぐことができています。



マシントレーニングの様子
目標達成へ向けた女性の意欲は高く、５ヶ月後には転倒が防げるようになってきました。

基本データ

- デイサービスセンター アルフィック（通所介護）
- 利用者数：40名（定員）
- 平均要介護度：1.8（2014～2018年）

計画書の記載例

介護サービスは計画に基づいて実施されますので、居宅介護サービス計画書で、総合的な援助方針に「社会参加」、長期目標のところには、「社会活動に継続して参加」といったキーワードが記載されてる必要があります。その上で、通所介護計画書には、「本人の希望」で「社会参加」をすること、その具体的な内容を記載します。



NPO法人つながりの開
DAYS BLG！代表
前田隆行さん

居住サービス計画書

総合的な援助の方針

病気の進行により記憶力、判断力が低下されてきているために、日常生活に支障をきたしています。ご本人様の生活リズムを維持していくことと同時に、介護者である妻の介護にかかる負担を軽減していけるように、サポートしていきます。
社会参加、人と関わる楽しみ、食事等のサービスを目的としたデイサービスの利用。

長期目標

社会活動に継続して参加できる。

短期目標

気の合う仲間と交流ができる。

サービス内容

- 社会とのつながり
- 地域での約割を果たす
- 社会交流活動

通所介護計画書

本人及び家族の希望

- 社会参加のできる居場所がほしい
- 本人の社会参加と生きがいにつながる交流活動

午前の活動

ボランティア活動、HONDAの洗車（有償）、ショッパーの配布（有償）、近隣の草取り（有償）、庭木の剪定、BLG!（通所介護サービスのある建物）の修繕、買い物、その他の中から希望する活動を選択。

午後の活動

ボランティア活動、、ショッパーの配布（有償）、近隣の草取り（有償）、庭木の剪定、BLG！（通所介護サービスのある建物）の修繕、買い物、その他の中から希望する活動を選択。

留意事項

なるべく本人の意思や希望を尊重し、社会とのつながりを広げるために接点を増やしていきます。特に、社会参加活動に力点を置きます。

留意事項

「仲間」と共に有償、無償のボランティア活動や野外活動を通じて、心身機能の維持を図ります。



株式会社ユニティ
代表取締役
濵田桂太朗さん

「社会参加・はたらく」を進めていくには、ケアマネジャーとのコミュニケーションが非常に大切になります。目標に向けて、屋外活動などの必要性も記載してもらう必要があります。こうした活動は必ずしも一般的ではないので、ニュースレターを作成し配布するなど、なるべく具体的な情報を届けるようにしています。

居住サービス計画書

短期目標（期間）	サービス内容	サービス種別	サービス提供事業所	頻度	期間
H28/5/1～ H28/10/31 歩き方、移動動作が安全に行え転ぶ心配なく生活できる。	自宅内の移動動作は手すりに掴まり慎重に行う。	インフォーマル	本人様	毎日	H28/5/1～H28/10/31
	日常生活動作の維持、向上を目的とした個別機能訓練を実施する。ほぐし、ストレッチ、物療、歩行訓練、レッドコード、パワーリハビリを実施する。移動動作時の見守り、声かけを行う。気分転換、リハビリの評価に屋外活動を計画する。	通所介護	リハケアガーデンネクスト	2～3回／週	H28/5/1～H28/10/31

ニュースレター（全体）



リハビリ重視型通所介護
リハケアガーデン ネクスト 2月号

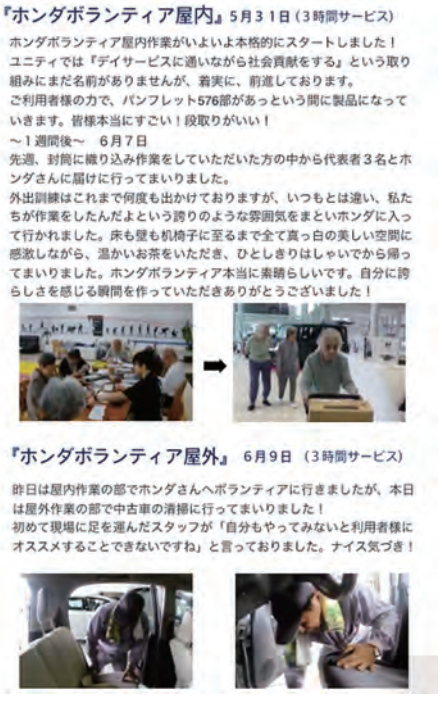
『一歩一歩…』（3時間サービス）

『動作獲得に向けて』（3時間·6時間サービス）

『栄養指導からの繋がり』（3時間·6時間サービス）

『旅行実現に向けて』（6時間サービス）

ニュースレター（詳細）



『ホンダボランティア屋内』5月31日（3時間サービス）

ホンダボランティア屋内作業がいよいよ本格的にスタートしました！
ユニティでは『デイサービスに通いながら社会貢献をする』という取り組みにまだ名前がありませんが、着実に、前進しております。
ご利用者様の力で、パンフレット576部があっという間に製品になっていきます。皆様本当にすごい！段取りがいい！
～1週間後～　6月7日
先週、封筒に織り込み作業をしていただいた方の中から代表者3名とホンダさんに届けに行ってまいりました。
外出訓練はこれまで何度も出かけておりますが、いつもとは違い、私たちが作業をしたんだよという誇りのような雰囲気をまといホンダに入って行かれました。床も壁も机椅子に至るまで全て真っ白の美しい空間に感激しながら、温かいお茶をいただき、ひとしきりはしゃいでから帰ってまいりました。ホンダボランティア本当に素晴らしいです。自分に誇らしさを感じる瞬間を作っていただきありがとうございました！

『ホンダボランティア屋外』6月9日（3時間サービス）

昨日は屋内作業の部でホンダさんへボランティアに行きましたが、本日は屋外作業の部で中古車の清掃に行ってまいりました！
初めて現場に足を運んだスタッフが「自分もやってみないと利用者様にオススメすることできないですね」と言っておりました。ナイス気づき！

「社会参加・はたらく」により生きがいをつくることが必要



Q&A



岡山市 保健福祉局
保健福祉部
医療政策推進課 課長
西 謙一さん

Q1 介護保険サービスの利用者の社会参加・はたらくというテーマについて、自治体としてはどのようにとらえていますか？

A1 本市は、高齢者の方が長く住み慣れた地域で暮らしていくことが出来る社会を目指し、従来から自立支援を推進しています。運動による身体状態の改善だけでなく、「社会参加・はたらく」により生きがいを持って生活することは、自立に欠かせない要素だと考えています。またこれにより、増大する社会保障費の抑制にも繋がると考えます。

Q2 有償ボランティアとして謝礼が発生する場合もあると思いますが、保険者としては、どのように考えていますか？

A2 厚生労働省からの通知により、介護サービス利用者が、有償ボランティア活動により謝礼を受け取ることは、現在でも条件付きで認められています。今後は、利用者のモチベーションや事業所の創意工夫を向上させていくため、より十分な謝礼の受領が可能になっていくことも期待しています。

Q3 今後の介護保険サービスの展望はどのように考えていますか？

A3 これからは、高齢者の方が介護が必要な状態になったとしても、既存の形式の中でお世話をするだけではなく、本人へのアセスメントをベースに、地域や社会と繋がりを持ちながら、生き生きと住み慣れた地域で暮らしていくことが出来るような介護サービスが求められていくのではないかと考えています。

Q4 全国の社会参加・はたらくを進めようとしている介護事業所へのメッセージをお願いします。

A4 「社会参加・はたらく」を進められている事業所の方は、利用者と向き合い、その意思を尊重し、生き生きと暮らしてもらうために工夫しながら取り組まれていることと思います。これから取り組まれようとする方は、本誌の事例等も参考にしていただきながら、是非利用者にとってより良いサービスを提供していっていただきたいと思います。



今回の調査をする中で、ある委員の方から、「社会参加活動」という言葉自体がおかしいのではないかという指摘がありました。高齢者ではなく、若い人であれば、人と交流したり、仕事をしたりすることを、わざわざ社会参加活動などと呼ばないのではないかという疑問でした。高齢であろうが、認知症であろうが、その人が生き生きと暮らしていくためには、人や社会とのつながりが必要であり、その中でなんからの役割やしごと（有償無償を問わず）が必要なのは言うまでもありません。逆に言えば、既存の制度にあわせて事業をする中で、いつの間にか、そうした当たり前のことが実現しにくい状況が生まれてしまっているという現実があるのかもしれません。

今回の事例を通じて分かってきたことは、既存の枠組みの中で、「社会参加」をどのように実現するのかという視点だけでなく、民間ビジネスや地域の活動も含め、社会全体で、要介護・要支援の人々を含む全ての人が、つながり、役割を持ち、ハタラク（誰かのために、なんらかの仕事をする）ことができる社会をどのように作っていくのかという大きな視点が必要だということです。「社会参加」をことさら強調しなくても、要介護・要支援の人々が社会に参加できる状態をどのようにつくるのか。そのために、介護保険サービスも含めた仕組みをどのように活用していけるのか、発想の転換が求められています。



つながる・役割・はたらく

～介護事業所から広がる「社会参加活動」の始め方～



一般社団法人 人とまちづくり研究所

冊子構成・編集：徳田雄人（株式会社スマートエイジング）
冊 子 デ ザ イ ン：佐藤理樹（アルファデザイン）

平成30年度　厚生労働省　老人保健健康増進等事業　介護サービス事業における社会参加活動の適切な実施と効果の検証に関する調査研究事業　2019.03 発行